

岩手医科大学報

Iwate Medical University News

2011・8 vol.419

●発行者—学長 小川 彰 ●題字—理事長 大堀 勉

救援物資、震災募金への御礼

この度の東北地方太平洋沖地震に際しましては、多くの皆様から救援物資並びに募金をお寄せいただいています。皆様からの温かいご支援に対し心より御礼申し上げます。



矢巾キャンパスで行われたドクターヘリの機体見学会

〈8月7日(日)〈関連記事P6〉〉

おもな内容

- 被災地の支援活動を振り返って
- トピックス 岩手医科大学共済会が県内被災地への義援金を贈呈しました
- 表彰の栄誉 宇宙航空研究開発機構（JAXA）から感謝状が授与されました
- フリーページ 遠野「続石（つづきいし）」の巨石

被災地の支援活動を振り返って

3月11日に発生した東日本大地震・大津波大災害により被災された方々には、心からお見舞い申し上げます。地震発生直後から、多数の本学職員・学生が被災地での支援活動を行っています。

本号では、被災地での支援活動について、職員から寄せられた原稿を第418号に引き続きご紹介します。

※大学報では、被災地の支援活動を行った職員からの原稿を募集していますので、

大学報事務局（企画課）内線：7023 E-mail：kikaku@j.iwate-med.ac.jp までお寄せください。

歯科医師による身元不明死体の個人識別

歯学部口腔外科学講座歯科口腔外科学分野 熊谷 章子 助教

私は岩手県歯科医師会警察歯科委員会主導による、被災地での身元不明死体個人識別のための歯科所見採取と、生前記録との照合作業に携わっています。岩手県歯科医師会は毎年、岩手県警察と合同で、東京歯科大学法歯学講座の花岡洋一先生ご指導のもと大規模災害訓練を行っていましたが、想像を超える遺体の数、当初、遺体安置所は20か所以上も点在しており、訓練された警察歯科委員だけでは足りず、多くの歯科医師の力が必要でした。

震災1週間後に歯科医師会館で行われた遺体の歯科所見採取法と、デンタルチャート作成法の説明会には、本学の歯科医師も多数参加し、その後の約2か月間に渡る現場作業に臨みました。普段の診察とは勝手が違ううえ、保険カルテや歯科検診とは全く異なるデンタルチャートへの記入、3月末からはX線撮影も行うようになり、慣れない環境でご苦労されたと思います。震災から100日が過ぎた今もなお、身元不明死体は収容され続けています。死後変化が進み、DNA検査の試料採取も難しい今、まさに歯科所見が有用なのですが、死後脱落歯も多く、6月からの現場作業は、法医学会から派遣された専門的知識をもつ歯科医師によってなされています。

警察歯科委員会は、解剖学講座機能形態学分野の藤村朗教授により構築されたソフトで、採取された約3000体分の歯科所見をデータベース化し、幸い保存されていた生前カルテとの照合作業を行っています。身元が判明し家族に引き取られた方もいますが、未だ遺体安置所に足を運び、家族と思わしきご遺体を探している遺族もいます。多くの方が家族のもとに帰るための情報提供できるよう、これからも私達は作業を続けていきます。



大震災1週間後に歯科医師会館で行われた説明会の様子

地震津波に伴う遺体検案業務を振り返る

岩手医科大学医師会検案医担当理事 増田 友之 病理学講座病理病態学分野 教授

今回の大震災に際して本学職員の一致団結した行動力、協力により、被害・混乱を最小限に食い止めることができたことは特筆すべき事態と考えます。関係各位のご協力に敬意を表します。

震災に際し、本学では沿岸被災地に対する種々の医療救援活動を行っていますが、本稿では検案業務に出動した医師・歯科医師のご尽力をご紹介します・記録し、併せて感謝申し上げます。

地震・津波到来直後から沿岸の医師は検案業務に臨み、3月11、12日だけで11名の医師が検案業務に従事したことが記録されています。しかし、大勢の犠牲者が予想されることから岩手県警では地元の医師だけでは対応し切れないと判断し、3月11日午後7時20分、検案応援を岩手県医師会に打診しております。3月12日には内陸部より4名の医師が検案に向かい、翌13日からは岩手医科大学より5名の医師が検案業務に向かいました。その後の10日間は本学より毎日5または6名の医師が検案業務に出動しました。本学では、法医学講座出羽教授のご協力を頂き、3月14日夕刻に検案出動医師に対する説明会を開催しました。また、3月30日には既に出動

した検案医師の経験をフィードバック頂きながら、2度目の説明会を開催しました。重油不足で暖房の切れた説明会場に多くの医師が真剣なまなざしで臨む姿がありました。この間、岩手県内では3月15日の621体を最高に、毎日100体以上のご遺体が3月22日まで収容されました。この間の検案業務には沿岸地元の医師・歯科医師、岩手県内陸部から出動した医師・歯科医師、警察庁から派遣された日本法医学会医師・歯科医師がこの業務に当たり、ピーク時には一日に43名の医師、24名の歯科医師が検案業務に従事したことが記録されています。

その後、一日の収容遺体数は100体以下になり、遺体安置所も順次、統合縮小されました。本学からは6月14日に1名の医師が出動し、検案出動を終了しております。延べ68名の医師に検案出動頂きました。今後は時折収容されるご遺体検案に沿岸の地元警察協力医が対応することになっています。6月28日現在岩手県内の死者・行方不明者は4,564名・2,247名になっており、未だかなりの数の行方不明者がおられます。

ご協力賜りました多くの医師・歯科医師に感謝申し上げます。

今般の東日本大震災に際し、医療安全管理部感染症対策室は3月14日の小林病院長指示を受け、「いわて災害医療支援ネットワーク」を構成する感染制御専門班として被災地支援活動に参加しました。

発災直後はライフラインや通信が壊滅し、多くの避難所が劣悪な衛生状態におかれました。また、折しもインフルエンザや感染性胃腸炎の流行期にあり、被災地での感染症蔓延が懸念されていました。3月17日、当対策室は本学の医療支援班に随行して被災地の感染症リスク把握を開始。さらに、3月23日〈宮古地区〉、同25日〈高田・大船渡地区〉、同28日〈大船渡・釜石地区〉には大学提供の車両で避難所等延べ30ヶ所以上を訪問し、衛生資材の配布と対策指導および感染症発生状況について調査し、報告しました。その過程で広域におよぶ被災地の組織的支援は本学のみでは不可能との判断に至り、内陸の県立病院に所属する、感染制御担当者の協力を県に働きかけ、4月6日からは当対策室に事務局を置く「いわて感染制御支援チーム（ICAT*）」を立ち上げて組織的感染制御活動を可能としました。

さらに、防衛医大の加来准教授の協力で、前例のない、携帯端末による日報形式サーベイシステムの導入を試みました。

6月現在、ICATはこの避難所単位の症候群サーベイ情報を生かし、支援を要する地区を特定して、衛生管理（衛

生材料の配布・手指や環境消毒に関する指導）、感染症情報発出、感染症の拡大防止などの支援活動を行っています。

仮設住宅の整備で感染症の集団発生リスクは低減しつつあるものの、夏期に向けて食中毒や昆虫媒介感染症などに注意を要する状況であり、今後も季節や時期に則した、専門的支援が継続的に必要な状況にあります。

*Disaster Infection Control Assistance Team of Iwate



いわて感染制御支援チーム（ICAT）

（前列左から）小野寺薬剤師（本学）、高橋検査技師（磐井）、櫻井室長（本学）、加藤副院長（磐井）、加来准教授（防衛医大）、工藤課長（岩手県保健衛生課）。（後列左から）吉田（磐井）、福田（県中）、外館（県中）の各ICN、中島検査技師（胆沢）、岩淵ICN（胆沢）、松館主任（保健衛生課）。以上に加え、小石ICN（中部）がチームに参加し、本学では吉田 優ICNが留守を引き受けました。なお、ICNとは感染管理認定看護師の略です。

眼科診療応援

眼科学講座 教授 黒坂 大次郎

現地を実際に見たときの衝撃は大きかった。現地に立つと五感すべてで感じるためか、TVの映像とは全く別物であった。そして実に多くの医療チームが日本中から来到ることに圧倒された。医学生までもが来ていた。いろいろな思いに触れるにつれ、現地での診療応援をしなければとの思いにかられ押しかける決意を固めた。診療依頼はなかったし、「眼科」であったため、現地やいろいろな機関の対



バンでの診療を待つ人々（大槌町）

応も当初厳しかった。眼科？という反応は、もっともだと思う（結果的には、「眼科」に特化し差別化ができ受け入れられたのだが、本当は初期から一般診療の中に眼科医が混ざるのがよいと今は思う）。自分でも眼科に特化して被災した人に受け入れられるのか不安も大きくいろいろと悩んだが、とにかくやろうと実行に移した。診察が始まると患者さんは多く来てくれ、うれしかった。精神的にタフな現場であったが、医局員は、黙々と診療にあたってくれた。心から感謝しているし誇りに思っている。ポリクリが再開されると、学生は皆自主的に参加してくれた。大学の事務、他大学医師も参加してくれた。

今振り返ると活動を起こしたかどうか、うまくいったかが重要ではないと思う。岩手の皆が感じたあの衝撃を正面からとらえ心に刻み込むことが大切なのだと思う。このみが新たな活動の原動力になると教えられた。

最後に、今回の活動は、日本眼科学会・日本眼科医会・岩手県眼科医会の全面的なバックアップ（資金・物資など）を受けた。ビジョンバンは慶大眼科坪田教授が実現させた。この場を借りて感謝したい。そして我々はこの7月から仮設診療所に移り眼科診療を継続させている。我々は岩手の医者である。

被災地の支援活動を振り返って

救命救急センター看護師 DMAT 隊員 菅 原 美 和

「地震だ!!」3月11日14時46分、突然大きな揺れを感じた。揺れはいつも以上に長く収まらない。さらに、停電によりどのくらいの規模の地震で被害状況はどのくらいなのか何も分からなかった。この時、準夜勤前で自宅にいた私は急いで病院へ向かい、病院到着後にテレビで報道されている東北地方の悲惨な状況に唖然としながら、DMATとして出動する準備を行った。

DMATとは、災害の急性期（概ね48時間以内）に活動できる機動性を持った、専門的訓練を受けた災害派遣医療チームのことを言う。医大DMATである医師、看護師、薬剤師の5名が、地震直後に沿岸の病院に多くの傷病者が搬送されているとの情報から、県立二戸病院、久慈病院へ出動した。その後は、DMAT隊員を交代しながら3月下旬まで大船渡、山田、大槌、宮古など沿岸の病院や避難所へ出動した。多くの車やバスの交通渋滞、高速道路の隆起、建物が流され道路が寸断し、町ごとなくなるといふ現実を目の当たりにしながら不安な思いで活動した。また、テレビで報道されている状況と目の前に広がっている状況がこの震災が今までにない大災害であると実感させられるばかりであった。何よりも、津波の影響により現場は助けられる傷病者が発見できない状況であり、発見されるのは死体が元気な人かのどちらかであった。全国から集まってきた

DMATや自衛隊、警察、消防、ボランティアと多くの人が、唖然としながらも被災者へ声をかけながら活動していた。何もすることができない歯がゆさを感じながらも、被災者からの「ありがとう」という感謝の言葉を聞く度に救われる思いであった。想像を超える今回の経験を忘れずDMAT隊員として、またいつ災害が起こるか分からないと意識しながら真摯に取り組み研鑽していきたい。



被災した大槌町

災害派遣活動を通して

歯科衛生部 歯科衛生士 村 上 美 代

今回、東日本大震災の歯科医療支援のため岩手医大歯科医療センター救援隊として山田町に行っていました。救援隊に選ばれた時には正直不安でした。報道で見ていた被災地はあまりにひどく、現実とは思えないような映像ばかりで、自分はその中で歯科衛生士として何ができるのか、そう考えるととても緊張しました。

私は歯科医師、歯科技工士と共に診療班として3回、山田町の避難所へ行きました。山田町までは片道2時間半かかります。途中までの道はのどかな田舎道でしたが、山田

町に近づくにつれて景色は一変。辺りは瓦礫の山、津波の痕に唖喘として声が出ませんでした。被災地の状況は、報道で見るのと実際に肌で感じるのとでは、全然違っていたのです。

私は診療班として、避難所で主に歯科診療補助をさせていただきました。診療内容は様々で、虫歯や歯茎が腫れて痛い人、中には入れ歯を流されてしまって食事をするのに不便な方もいました。避難所に着くとすぐに診療を待つ人達がたくさん並んで待っていました。診療時間中、常に人が来る状態で歯科の需要の多さを改めて感じました。慌ただしく診療しているなか、受診した方に「ありがとう」「助かりました」と言ってもらえると素直に来てよかったと思いました。

今回の救援隊での活動は私にとってとても貴重な経験になりました。この活動を通して私が受けた影響はとて大きく、実際に被災地に行き、現状を見て聞いて肌で感じることによっていろいろなことに気づかされ、考えるきっかけになりました。私は今回経験したことを伝えていくことが大切なのだと思います。自分の見てきたこと、聞いてきたことをできるだけ多くの人へ伝え、被災地の現状を知ってもらえればと思いました。今回経験したことを忘れず、日々の診療に努めてまいりたいと思います。



山田町の小学校にて

忘れもしない、H23年3月11日(金)午後2:46。大船渡病院の診療応援から帰院し、中9Fでカルテ記載中のことだった。突然、今まで経験したことのない大きく長い揺れが起こった。直後から停電となり診療は中止。当時は未曾有の大地震でこれだけ大きな被害が出ることは全く予想できなかった。停電のためほとんど情報が収集できないなか入って来た情報を総合すると、沿岸部を中心に大津波が押し寄せ多数の被災者が出たとのことだった。

かくして数日の準備期間を経て3月16日(木)から当院の被災地診療が始まった。遠野にベースキャンプを設置し、岩手医大DMATが常駐。DMATの情報をもとに診療に入ることになっていた。実際には遠野での指示で行き先が決まるとのこと。盛岡を出発する時にはどこに向かうかわからないままだった。自分が参加したのは2日目である3/17(木)だった。まだ雪も残っており、かなり寒さが厳しい状況であったことを記憶している。遠野に到着し、DMATの指示のもと参加した7人の医師は大槌行き5名(外科 柏葉 Dr、心腎内科 房崎 Dr、神経内科 及川 Dr、大浦 Drと自分)、釜石行き2名(放射線科 中村 Dr、外科 御供 Dr)の二手に別れることとなった。釜石経由で大槌に入った頃にはすでに12時を過ぎていた。初めに向かったのは安渡小学校、ここは昨日も医療チームが入ったが震災後初めての診療で患者さんが殺到し時間内に診きれなかったためである。また近くにお寺と神社があるがそこらは行けなかったと申し送りがあり、当日はさらに小学校、お寺と神社の2チームに分けて診療に当たった。自分はお寺と神社での診療に当たった。震災後7日目であり、急性患者さんはすでに急性期病院へ搬送されており、慢性疾患を有する患者さんがほとんどであった。どちらも常用薬が流された高齢患者さんが多かったが、震災後のストレスから来る不眠症や便秘を訴える方も多かった。持ちこんだ薬剤の中から処

方するも数に限りがあり、2日分のみの処方となった。2か所の診療でおよそ100人の患者さんを診察し、小学校に戻ったところ終了時間が迫っていたが、さらにもう1か所に行って欲しいとの要望があり、赤浜小学校へ向かった。こちらはかの「ひょっこりひょうたん島」のモデルになったといわれる弁天島が見える海岸部で、がれきが大量に残存しており到着するのも困難であった。すぐ近くには民宿の屋根に乗り取り残されている観光船はまゆりが見え、津波の大きさを痛感せずにはいられなかった。こちらも震災後初めての診療とすることで多数の患者さんの診療を行った。すべてが終了し、盛岡に到着した頃には午後9時を過ぎていた。

今回の震災では沿岸部が壊滅的なダメージを受け、県立高田、大槌、山田病院は壊滅、ほか多数の医療機関が影響を受け、多数の医療難民を生んだ。今まで築いたものが一瞬で消滅してしまう恐ろしさをこんなにも身近で経験するとは夢にも思わなかった。震災前と同様の医療体制が供給されるにはまだまだ時間を要する。療養先がないから治療ができないということがあってはならないし、そうならないように医療を提供できる環境を維持することが望まれる。一個人だけではできることに限りがあるが、今後も診療応援を含めた協力体制をもとに「医療復興」が達成されることを切に願う。



民宿の2階に取り残された観光船はまゆり

● 理 事 会 報 告 ●

■ 6月定例（6月27日開催）

1. 教育職員の人事について

医学部循環器医療センター内科 教授
森野 禎浩（現 東海大学医学部内科学系循環器内科学 准教授）
（発令年月日は割愛の状況により決定）
医学部耳鼻咽喉科学講座 講座内教授
志賀 清人（前 東北大学病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科 副科長）
医学部産婦人科学講座 特任教授
福島 明宗（前准教授）

（発令年月日 平成23年7月1日付）

2. 高度看護研修センター長の選任について

高度看護研修センター長
藤岡 知昭（附属病院副院長）
（任期 平成23年7月1日から平成24年3月31日まで）

（副院長在任期間）

3. 歯学部改革プロジェクト実行委員会規程の制定について

本学歯学部教育、診療、研究システムの改革を進めるにあたって、歯学部改革プロジェクト実行委員会を設置
（施行年月日 平成23年7月1日）

4. 嘱託教育職員の名称変更に伴う組織規程の一部改正について ＜嘱託教育職員＞

変更前：嘱託教育職員（嘱託教授、嘱託准教授、嘱託講師）

変更後：特任教授、特任准教授、特任講師

＜特任教員＞

変更前：特任教員（特任教授、特任准教授）

変更後：特命教員（特命教授、特命准教授）※寄附講座等
（施行年月日 平成23年7月1日）

5. 診療科の新設及び組織機構図の一部改正について 遺伝に関する検査・診断等が必要な症例が各診療科で増加していることに伴い、臨床遺伝科を新設

（施行年月日 平成23年7月1日）

6. 附属病院勤務医師等の処遇改善について

- ① 1次・2次救急外来における宿日直医師への手当加算
- ② 大学院生等の処遇改善
- ④ 内部審査手当額の引き上げ
- ⑤ 診断書等の文書作成に係る手当の新設
- ⑥ セカンド・オピニオンに対する手当の新設
- ⑦ 診療従事特別調整手当の新設
- ⑧ 診療従事教員等特別手当の新設
- ⑨ その他

体育大会壮行会が行われる

7月4日(月)午後5時30分から矢巾キャンパス体育館で体育大会壮行会が行われました。この催しは、「東日本医科学生総合体育大会」「全日本歯科学生総合体育大会」をはじめ、岩手県民体育大会など各種体育大会が夏期に行われることから、参加する学生を激励するために毎年行われているものです。

壮行会では、小川学長をはじめ、祖父江副学長や学友会総務局委員長の金裕純さん(歯学部4学年)などが激励の挨拶を述べました。続いて剣道部の魚里晋平君(歯学部4学年)が選手宣誓を行い、空手部の川村浩二君(薬学部2学年)大会参加学生にエールを送るなどして、大会に参加学生は士気を高め合いました。



岩手医科大学共済会が県内被災地への義援金を贈呈しました



(左) 小田島保健福祉部長 (右) 佐藤成大会長

本学職員2,000名以上で構成する岩手医科大学共済会は、東日本大震災による県内被災地の復興支援を目的として、500万円の義援金を岩手県に贈呈しました。

義援金は、7月6日(水)岩手県庁において、岩手医科大学共済会を代表して佐藤成大会長(微生物学講座 感染症学・免疫学分野教授)から、小田島保健福祉部長に手渡されました。

小田島保健福祉部長からは「岩手医大には、震災発生当初から被災地医療の中核としてご活躍いただいております。重ねてこのような形でご支援いただけることは、非常にありがたいことです」との言葉がありました。

花巻温泉病院で「七夕さんさ会」が行われる

花巻温泉病院では7月15日(金)午後2時から「七夕さんさ会」を開催しました。職員が「七夕くずし」「栄夜差踊り」「花巻温泉音頭」を披露し、職員手作りの綿アメ・かき氷などが配られました。この「七夕さんさ会」は、「盛岡さんさ」に向けた練習成果の披露を兼ねて、例年7月の七夕会に合わせて開催されています。会場では「早く元気になりますように」などの願いが込められた短冊などが飾りつけられ、浴衣姿の職員達はそれらを囲む様に笛・太鼓・唄・踊りを演じました。会場内は、踊りに合わせた患者さんの手拍子が鳴り響き、職員の輪に入って一緒に踊を楽しむ患者さんもいて、お祭りの様な活気あふれるものとなりました。



矢巾キャンパスでドクターヘリの機体見学会が行われる



デモ飛行中に矢巾キャンパス周辺を撮影

8月7日(日)午前10時から、平成24年度からの運航を予定しているドクターヘリの機体見学会が矢巾キャンパス駐車場で行われました。この機体見学会は、一般市民の皆様にご理解を深めてもらおうと、中日本航空様との協力により実施されたものです。

見学会では、3回にわたるデモ飛行が行われ、一般市民の皆様をはじめとした203名の見学者で賑わいました。

本学は、ドクターヘリ運航に向けて、平成23年度中に附属病院移転用地内(矢巾キャンパス)にヘリポート基地を整備する予定です。

表彰の榮譽

宇宙航空研究開発機構（JAXA）から感謝状が授与されました

病理学講座 先進機能病理学分野の澤井高志教授は、超高速インターネット衛星「きずな」を利用した実証実験に対する尽力を称えられ、宇宙航空研究開発機構（JAXA）より感謝状が授与されました。

「きずな」は世界最高速の衛星通信性能を搭載しており、澤井教授はこれを利用して、遠隔病理診断（テレパソロジー）への応用を行い、細胞組織や血液疾患の病理診断が十分に可能であることを実証しました。

また、東日本大震災により通信が途絶えた盛岡と大船渡、釜石の間の通信確保にも大きな力を発揮しました。



岩手県警察本部長から感謝状が授与されました

7月27日(水)、東日本大震災発生以来の本学の災害警備への積極的な協力について、その功労が称えられ、岩手県警察本部から感謝状が授与されました。本学学長室で行われた授与式には、小川学長、祖父江副学長、鈴木医学部長が出席し、樹下尚県警本部長よりのお礼のことばとともに感謝状が手渡されました。

写真：右から樹下県警本部長、小川学長、祖父江副学長、鈴木医学部長▶



シリーズ

職場めぐり

No.69



看護部（中3階）

中3階精神科病棟は看護師29名・補助看護師1名・クラーク1名のスタッフで、10対1の看護基準をとっています。精神疾患でも重症度が高く、身体合併症をもつ患者の受け入れをすると共に、精神救急医療体制をとり、救急科と連携していま



す。入院患者の大半は緊急入院であり、さまざまな精神症状に対応しながら、多疾患の看護も必要とされ、広い知識と技術が要求されます。傾聴と共感の看護を基本に患者との信頼関係を築き、「すべて患者の行動には意味がある」ことを原点到に、アセスメントしながら援助を行っています。人が精神を病む行動を見ることは辛い面もありますが、良い方向に変化する回復への過程を見られることは看護師としての喜びです。病棟では、CVPPP（包括的暴力防止プログラム）訓練や心のケアチーム活動があり、傾聴スキルを高め、今回の震災後の心のケアチームにも参加しています。（主任看護師 柚澤 洋子）

内部監査室

内部監査室は平成22年4月に設置された部署で、現在室長、課長、課員2名の4名で構成されており、創立60周年記念館9階にあります。また、今年度から新たに企画部法規担当主幹が同室となりました。監査というと厳しく堅いイメージを持たれるかもしれませんが、業務について見直し、問題点があれば改善していく、いわば「大学の健康診断」のようなものではないでしょうか。内部監査の目的は大学の事業活動を支援することであり、大学の方針やルールが適切に守られながらより質の高い業務、効率の良い業務が行える方法を考えていくことを業務目的としております。また、公

益通報及び相談等の窓口になっており、法令・学内規程違反等の行為への対応を行っております。新米部署ではありますが、監査や公益通報対応を通して皆様の業務のお役に立てればと考えておりますので、ご協力の程宜しくお願い致します。

（内部監査室
吉田 彩子）



学位授与

●医学研究科（博士）

<授与年月日：平成23年6月7日>

授与番号	氏 名	博 士 論 文 名
甲第1532号	鈴木 真紗子	磁化率強調画像（SWI）を用いた多発性硬化症ブランクの活動性評価：造影増強効果との関連について
甲第1533号	八重樫 幸 典	関節軟骨変性のMRI画像解析と生化学的定量との比較検討
甲第1534号	佐 藤 博 宣	岩手県北3医療圏における大腿骨近位部骨折罹患調査：骨折型別にみた受傷原因の解析
甲第1535号	佐々木 慎	ポリアクリロニトリル膜を使用した保存血プライミング回路におけるブラジキニンの動態：保存血浄化法の検討
甲第1536号	肥 田 頼 彦	慢性腎臓病における血清C反応性蛋白値と死亡および血管事故との関連性
甲第1537号	後 藤 巖	光干渉断層法による冠動脈ステント留置部の形態と新生内膜の定量的性状評価；BMSとSESの比較
甲第1538号	田 村 亨	岩手医科大学附属病院で分離された黄色ブドウ球菌の保有する毒素遺伝子の検索
甲第1539号	松 尾 鉄 平	Reverse-phase protein lysate microarray（RPA）による細胞内シグナル伝達経路モニタリング
甲第1540号	島 谷 蘭 子	腎癌におけるConnexin26,32,43の発現と臨床的意義
甲第1541号	赤 坂 理三郎	CD10陽性大腸癌の分子病理学的解析
甲第1542号	佐 藤 正 義	屈筋腱縫合後の腱・腱鞘滑走抵抗：In a canine model in vivo
甲第1543号	内 村 瑠里子	脊柱側弯症術後の血液・毛髪内チタン濃度に関する検討
甲第1544号	曾 我 菜 海	脳室周囲白質軟化症における点頭てんかんの発症予測因子
甲第1545号	石 川 陽 平	ステロイド誘発鶏胚白内障モデルでのsemicarbazide-sensitive monoamine oxidase阻害剤の効果
甲第1546号	三 浦 自 雄	マイクロサテライト安定性及びマイクロサテライト不安定性に基づいた子宮頰内膜腺癌の分子病理学的解析
甲第1547号	嶋 本 記里人	加齢性難聴におけるミトコンドリア12SrRNAの961変異の検討
乙第720号	齋 藤 小 豊	潰瘍性大腸炎患者の精神的ストレスと唾液中クロモグラニンAの検討
乙第721号	遠 藤 寛 興	Alginate beadsで培養した椎間板軟骨細胞に対するinterleukin-17A添加の効果
乙第722号	久 邇 良 徳 彦	PPI治療抵抗性逆流性食道炎患者における胃排出能と胃電図による運動機能評価
乙第723号	勝 俣 範 之	進行卵巣癌に対するドース・デンス毎週パクリタキセルとカルボプラチンのランダム化臨床第三相試験

岩手医科大学募金状況報告

● 総合移転整備事業募金

～ 皆様のご厚志により支えられています ～

平成21年6月から始めました岩手医科大学総合移転整備事業募金に対し、格別のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

皆様のご厚志は、大学発展の大きな原動力となるものであり、本事業の早期達成のため有効に活用させていただいております。

今後とも関係各方面からの格別なご協力・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

今回は10回目の御芳名紹介です。(平成23年5月1日～平成23年6月30日)

※御芳名及び寄付金額は、掲載を希望されない方については掲載しておりません。

会社・法人等

<1,000,000円>

有限会社 オルソ・サポート (愛知県)
医療法人社団 大熊歯科医院 (東京都)

<御芳名のみ記載>

社団法人 日本アイソトープ協会
(受付順、敬称略)

個人

<1,000,000円>

山崎 紀一(医15)
吉田 克己(父母)
坂牛 栄治(専17)

<100,000円>

吉田 茂(父母)
坂本 幸博(父母)

<11,922円>

浦田 静子(元教職員)

<1,000円>

吉 伸 崇(一般)

<御芳名のみ記載>

熊谷 文弥(医4)

一戸 孝七(名誉教授)

高橋 欣也(歯15)

藤井 良耕(父母)

内村 忍(医22)

渡邊 敏也(医11)

(受付順、敬称略)

これまでの募金累計額

区 分	申込 件数	募金金額(円)
圭 陵 会	419	226,872,000
在学生ご父母	176	79,240,000
役員・名誉教授	40	67,460,000
教 職 員	99	14,145,000
在 学 生	1	100,000
一 般	89	195,732,922
合 計	824	583,549,922

(平成23年6月30日現在)

岩手医科大学 震災募金のご案内

東日本大地震・大津波大災害に際し、被災により学業継続が難しい学生に対する経済的支援や今後単年で続くことが予想される被災地への地域医療支援のための資金、大学の教育施設の被災復興を目的として、岩手医科大学震災募金活動を行っております。皆様からのご協力をいただきますようお願い申し上げます。

なお、手続き方法等については企画部企画課 支援受付担当までお問い合わせください。

<お問い合わせ先>

岩手医科大学企画部企画課 支援受付担当

〒020-8505 岩手県盛岡市内丸19-1

TEL 019-651-5111 (内線 7022・7023)

FAX 019-624-1231

E-mail: kikaku@j.iwate-med.ac.jp



これまでの募金累計額

区 分	申込 件数	募金金額(円)
圭 陵 会	9	5,800,183
在学生ご父母	5	1,500,000
名 誉 教 授	1	100,000
教 職 員	17	1,240,000
一 般	69	2,977,211
合 計	101	11,617,394

(平成23年6月15日現在)

第88回大学報編集委員会

日 時：平成23年8月11日(木) 午後4時～午後5時

出席委員：山崎 健、影山 雄太、齋野 朝幸、藤本 康之、小山 薫、佐藤 仁、下山 佑、佐々木 光政、米澤 裕司、

赤松 順子、佐々木 忠司、中島 久雄、武藤 千恵子、野里 三津子、細川 幾恵

編集後記

先日、少年野球大会の審判をしてきました。震災で被災した三陸沿岸の4チームが招待され、少年たちは「野球を続けることができてすごくうれしい」と話しプレーに興じていました。3試合続けての審判でしたが、自分も楽しく審判をすることができました。その時、うれしくも悲しくも、人は人との関わりの中で生きているのだとあらためて感じました。また、私が少年たちから元気をもらった一日でした。
(編集委員 佐々木 光政)

岩手医科大学報 第419号

発行年月日 平成23年8月31日

編 集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 企画部 企画課

盛岡市内丸19-1

TEL 019-651-5111 (内線7022)

FAX 019-624-1231

E-mail:kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印 刷 河北印刷(株) 盛岡市本町通2-8-7

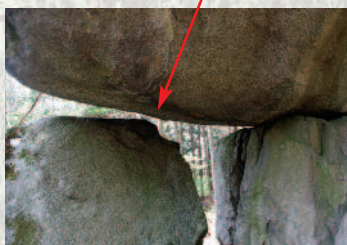
TEL 019-623-4256

E-mail:office@kahoku-ipm.jp

遠野「続石（つづきいし）」の巨石

平成22年6月号（Vol.405）で、盛岡市内の櫻山神社裏にある「烏帽子岩（兜岩）」と三ツ石神社境内にある「三ツ石」の二つの巨石をご紹介しましたが、今月号では遠野市綾織町にある巨石「続石」をご紹介いたします。

「続石」は、盛岡市から遠野市に向かう国道396号線沿いにある「南部曲り屋／千葉家」の少し先にその登り口があります。付近には熊出没注意の看板があり、山道を恐る恐る15分ほど登ると杉林に囲まれた小高い場所に「続石」が現れます。その巨大さに圧倒されながら、石の周りを注意深く眺めると、地面に二つに並んだ石の片方だけに巨石が笠石として絶妙なバランスで乗っていて、存在そのものがなんとも不可解で幻想的な石組であることが分かります。最も大きい笠石の大きさは、幅7メートル、奥行き5メートル、厚さ2メートルもあるそうです。この「続石」の謂れについては、あまりにも巨大な石のため、古代人が作ったお墓とか力自慢の弁慶が積み上げたものなどと、遠野物語に語られている伝説があります。（企画部長 遠藤 祐一）



省エネ推進委員会だより

～電力需給逼迫警報と計画停電について～

電力使用制限に伴う節電対策等による節電努力にも関わらず需給バランスが悪化し、「計画停電」のおそれが高まった場合、政府が「電力需給逼迫警報」を発報することになりました。この警報が発報された後、なお需給バランスが改善されない場合に計画停電は実施されることになります。

計画停電を防ぐためにも、家庭でも節電に心掛けしましょう。

電力需給逼迫警報の概要

